～10月の全校朝礼校長講話より

５つの大切「もの」。「もの」から考えを広げ・深める。

～新紙幣肖像・渋沢　栄一～

校長　栗原　建次

生徒の皆さん「おはようございます」２学期が始まり、ひと月が立ちました。生徒の皆さんは、順調に学校生活を過ごすことができているでしょうか。毎日は連続していて１週間となり、１か月となって振り返ることができます。その間は、良かったこともあれば、そうでないこともあったでしょうが、１週間、ひと月を節目に立ち止まり、課題に気が付いた時が新たなスタートです。自身を高める努力を継続していきましょう。

９月末に実施した1年生の校外学習(野外炊飯)では、一人ひとりの生徒の皆さんがカレー作りの役割を全うして取り組んでいました。一所懸命の姿をとても格好よく成長を感じました。さらなる成長を期待したいと思います。今後の行事には、生徒総会、合唱祭、連合行事の他、学年では、1年生は「イングリッシュフェスタ」、2年生は「職場体験」に向け、３年生は「進路面談」を実施予定で忙しさを増していきます。どの取り組みも主体的に取り組むことで、楽しんだり喜び合ったりの成果と失敗しても課題がわかります。苦労があっても獲得するものがあるのです。大切にして欲しいのは、修正すべき点はそのままにせず、次なる課題に向けてチャレンジする意欲を持ち続け最善を尽くすことです。

さて、生徒の皆さんは今年7月に新紙幣が発行されたのをご存じですか。そろそろ皆さんもこの紙幣と対面する機会あった頃と思います。本日は、本校の「５つの大切」の中から「もの」。日常生活に欠かせない「もの」である、「新紙幣」から学びを広げ、深めていきたいと思います。

新しい壱万円札では「渋沢　栄一」、五千円札には「津田　梅子」、千円札には「北里　柴三郎」を採用しています。長い時を経た現在でも、日本の国が課題としている「新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展」といった面から日本の近代化をリードし、大きく貢献したことが３者を採用した理由です。本日は、新紙幣の３者の中から、新しい一万円札の肖像「渋沢　栄一」の功績や　その志を共有して、２学期の充実に向けて、生徒の皆さんの心のエンジンがさらに意欲をもって稼働するよう、その生き方について紹介したいと思います。

渋沢栄一が生まれた江戸時代の終わりの頃は、日本は鎖国を続けた結果、外国に比べて科学や工業の発達が大幅に遅れてしまいました。しかし、明治維新の後の日本は驚くほどのスピードで欧米に追いついていきました。例えば、日本で郵便制度が開始されたのは明治４年。学校制度がはじまり鉄道が初めて開通したの

も明治５年でした。このように、日本では侍が刀を持って道を歩いていた時代から、わずか数年で次々に先進国の文化を吸収し、世界中を驚かしたのです。

また、経済の分野でも、明治６年には日本で最初の銀行がつくられ、その後も次々と重要な会社が設立されて、日本の経済は急速に発展していったのです。そして、その発展の中心にいたのが渋沢栄一です。

渋沢栄一は1840年、江戸時代の終わり頃に現在の埼玉県の裕福な農家に生まれました。家業の農業を手伝いながら、勉強や剣術の稽古に励んでいました。２３歳のときに、幕府を倒して新しい社会をつくるという運動に加わり、京都に行き、そこで、徳川慶喜(よしのぶ)に仕えていた平岡 円四郎との出会いが彼の転機となります。その後、徳川家の屋敷で働くことになり、２７歳のときに将軍となった慶喜(よしのぶ)の弟・徳川昭武(あきたけ)の家来として、パリの万国博覧会の見学のためにヨーロッパに渡ったのでした。ヨーロッパでは、身分差別のない自由平等な社会を見学し、様々な経済の制度を学んで日本に帰国したのです。彼が帰国した時には、日本ではすでに江戸時代から明治時代に変わっていました。その変化の大きな時代の中で渋沢の大活躍が始まります。ガス会社、造船所、電気会社等、次々に欧米のシステムを参考にして会社を設立し、９１歳で亡くなるまでに、設立に携わった会社の数は５００を超えたそうです。生徒の皆さんに紹介したい渋沢 栄一の素晴らしい点が２つあります。

１つ目は、作った会社を自分のものにしなかったということです。身内だけが裕福になる「財閥」というものを創りませんでした。日本の経済が国民・皆のためになるように取り組んだことです。

２つ目は、彼は社会の福祉事業にも力を尽くし、多くの学校や孤児院をつくったということです。彼は常に社会全体の幸せを追求したということです。

国民が豊になるための経済をつくること。また、学校や孤児院をつくって、人々が幸福に生活を営むことができることを、公的に達成しようとする福祉事業等に取り組んだのです。「皆の幸せため」を願って取り組んだ志とその功績から、渋沢 栄一は、「日本の資本主義の父」と呼ばれています。

本日は、多くの行事が予定されている10月を過ごす生徒の皆さんに、本校の５つの大切「もの」と関連させ、新紙幣壱萬円札の肖像である渋沢 栄一について紹介しました。

身近な「もの」や人から、生き方や考え・行動の仕方を学び、学校生活を過ごす様々な取り組みの際に、「自身のため」「皆の幸せのため」を願って志を持って取り組み、山崎中学校の生活や学びの充実を図っていきましょう。

合唱祭も迫ってきます。今、生徒の皆さんの志はどこに向かうべきでしょうか。一人ひとり自身のできる取り組みを行動に示していきましょう。

～11月の全校朝礼校長講話より

「霜月」　～過ごしやすい季節に、空を見上げてみよう。～

校長　栗原　建次

本日の全校朝礼では、イギリス出身の　喜劇王、チャールズ・チャップリンの　名言を紹介します。

Look up to the sky. You’ll never find rainbows if you’re looking down.

この名言は、「空を見上げなさい。下を見ていたのでは、あなたは決して虹を見つけられないだろう。」という意味になります。雨が降った後に、きれいな虹を見ることができることがあります。夢や目標に向かっているときには、なかなかうまく行かなくて、悲しかったり　辛かったりすることあります。悲しみや苦しみを「雨」に例え、「雨に降られて落ち込みそうになったとしても、顔をあげて空を見上げましょう。きっと　そこにはきれいな虹が見えるはずですから。」と、チャップリンは　伝えているのだと思います。

さて、生徒の皆さんは、「最近、空を　見上げて見たことは　ありますか。」11 月は霜月。霜が降りてくる　時期であることからつけられた呼び名と言われています。暑かった夏を過ごし、そして、秋が深まり、冬のはじまりの過ごしやすい季節を迎えました。晩秋から冬にかけては、空気が乾燥し、水蒸気による大気のゆらぎが少なくなるため、空が、澄んできれいに見えます。空を見上げて、昼間は、青空のうろこ雲や、晴れた夜には、星空を見上げて、私たちを包み込む自然の風景に触れて欲しいと思います。

生徒の皆さん、ここまで先日実施した合唱祭等の行事や部活動等に取り組み、忙しい毎日であったのではないでしょうか。夢中になって取り組んでいると、「目の前のことにだけに　心を奪われてしまっている」と感じることはないでしょうか。そんな時さに、空を見上げたり、周りの自然の景色に目を移したりすることで、目の前のことと同じように　大切にしなければいけないこと、一つのことばかりに集中にしているのでなく、優先して取り組むべきことは他にもある等、考え方を修正したり、深めたりすることの必要に気づかされることがよくあります。11 月の半ば頃、夜８時過ぎの夜空には、冬の星座を代表する３つ星の「オリオン座」が姿を現します。私は、子供の頃から眺めていて今年も再会できるのを楽しみにしています。「オリオン座」についてギリシャ神話では　次のように伝えられています。

村一番の　狩人であったオリオンは、とても　体が大きく、力持ちであったそうです。そんなオリオンは、そのうち力を自慢するようになりました。見かねた女神ヘーラは、オリオンをこらしめるために、彼の足元に大きなサソリを放ちました。さすがのオリオンもサソリの毒には勝てず、命を落としてしまったというお話です。今でもサソリが苦手なオリオンは、サソリが東から夜空に上がってくると、そそくさと西から沈んでいくと言われています。

冬の夜空を眺めていると、オリオンの三ツ星が輝いていて、オリオンの神話が、毎年頭に浮かんできます。私の場合は、「オリオン　まだ逃げているのか」「逃げるが　勝ちとは言うけれど」「逃げてばかりじゃはじまらない」など、空を見上げることで、様々な想像が働いて角度を変えた考えを持つことや　癒されることもあります。日常の生活の中で　生徒の皆さんにも、空を見上げることを試して欲しいと思います。星々が、生徒の皆さんに　声をかけてくれることもあると思うのです。そして、身の回りの星々や自然から「力をもらっているな」「支えられているな」と実感することもあると思うのです。

生徒の皆さん、時には試して欲しいと思います。心は常に動いています。心に栄養を与えて、「やれば(成長)できる」。２学期後半を迎えますが、また、前向きに　学校生活を過ごしていきましょう。

本日は、チャップリンの「空を見上げなさい。下を見ていたのでは、あなたは　決して　虹を見つけられないだろう。」という名言から、過ごしやすい季節 11 月に自然感じ、空を見上げ、夢や目標にたどり着く途中に、思うように行かないときには、視点を変えてみることや　想像力を働かせることも必要。ということをお話ししました。参考にしてください。

今年も、残すところ今月を含めて　ふた月です。最善を尽くして取り組んでいきましょう。